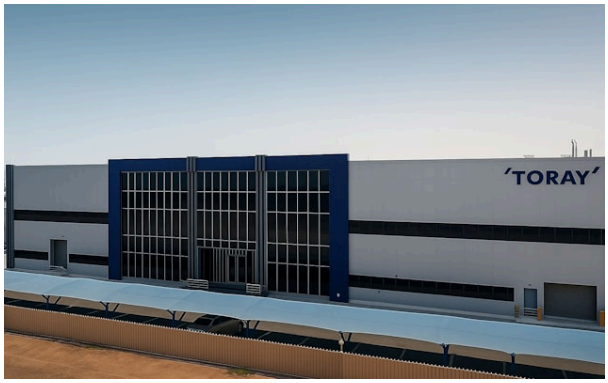
東レ、サウジアラビアで水処理膜一貫生産　海水を淡水化

2025/11/18 15:30 日本経済新聞電子版　399文字

　東レは18日、サウジアラビアで水処理用膜の新工場が稼働したと発表した。海水を淡水化するのに使う「ＲＯ膜」の工場で、ＲＯ膜のほか膜を円筒状にした最終製品まで一貫して生産できるようになった。従来の淡水化方法よりも環境負荷が低いことをアピールし、ＲＯ膜の採用拡大を目指す。



ＲＯ膜を製造する東レの工場（サウジアラビア）

　ＲＯ膜には非常に細かな穴があいており、圧力をかけながら海水をろ過できる。サウジアラビアにはこれまで膜を使い筒状の完成品に組み立てる工場はあったが、膜は日本などから輸入していた。サウジアラビアで膜製造から最終製品化まで一貫し手がけるのは東レが初めてという。7月に稼働を始め、投資額や生産能力は開示していない。

　サウジアラビアで淡水化には従来、海水を沸騰・蒸発させ塩分を取り除く方法がとられていた。膜を使うことで二酸化炭素（ＣＯ２）の排出量を大幅に減らせるという。膜を使った淡水化プラントの建設も進んでおり、生産体制を整え需要に対応する。

【関連記事】
・東レの4～9月、炭素繊維落ち込み純利益33%減　自社株買い500億円
・東レ、炭素繊維複合材のリサイクルで新技術　低温分解で劣化防ぐ

許諾番号NK000789日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。
本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。
本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。
本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。
Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.